

1-4

中医体質と客観的指標との相関 —その1：心拍変動解析値と AGEs 皮膚蛍光との相関—

○上馬場 和夫¹⁾，許 鳳浩²⁾，川端 豊慈樹²⁾，鈴木 信孝²⁾

1) 帝京平成大学ヒューマンケア学部，2) 浦田クリニック

3) 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科臨床研究開発補完代替医療学講座

【目的】

中医体質は未病状態を反映する指標として中国では多くの治未病センターで活用されている。これまで、中医体質が、気分やQOL (SF-36) と相関する指標であることが報告されてきた。今回、中医体質と客観的な指標である心拍変動解析値と皮膚 AGEs 関連蛍光の相関性を検討した。

【方法】

対象者：男性志願者 24 名 (23±6 歳、BMI：23±5) から、文書による同意を取得後、以下の 5 つの検査を行った。1) 中医体質分類法による問診票 (9 つの体質の標準化得点)、2) 生理学的検査：心拍変動解析による自律神経機能検査 (HRV:LF/HF 比と HF パワーを計算)、3) 皮膚の AGEs 関連蛍光測定：紫外線 A (350nm) の励起光を放射し 420nm の蛍光を捉える AGEs 関連蛍光測定装置を使い、心包経の前腕部皮膚 (日焼けや毛髪のない場所) で測定した。統計解析：標準化得点はピアソンの方法で相関係数を求めた。解析ソフトには、SPSS-v11 を用い、有意水準を 0.05 とした。なお本研究は医療法人ホスピター統合医療研究所倫理委員会の承認を得た。

【結果と考察】

痰湿質と気鬱質の標準化得点は、LH/HF 比と正相関を、HF パワーと負の相関性を示した ($r=0.41-0.59$, $p<0.01-0.05$, $n=24$)。湿熱質は、LF/HF 比と正相関を示したが ($r=0.51$ $p<0.02$)、HF パワーとの有意な相関性は得られなかった。皮膚 AGEs 関連蛍光は、痰湿質と湿熱質とに有意な相関性を認めた ($r=0.44-0.58$, $p<0.02$)。他の中医体質については相関性を認めたものはなかった。中医体質が自律神経機能と AGEs 代謝と関連することが示唆された。痰湿質では高血圧に移行する危険性が高いことが先らによって報告されているが、今回の結果はそれを支持する。また、男性に皮膚 AGEs 関連蛍光と湿熱質との相関性は、既報の結果と同じものであり、再現性が示された。AGEs は体内の炎症を惹起する作用があり老化や種々の疾病の発生に関与する未病発症要因としても注目されていることを考えると、湿熱質と痰湿質が AGEs と相関することは、これらの指標は中医体質が正に未病体質となることを支持するものである。

【結論】

中医体質は、心拍変動解析値、皮膚 AGEs 関連蛍光との関連性が示されたことから、今後、種々の補完代替医療的なアプローチの評価において、継続的で安価なツールとなりえるであろう。